

平成30年度第6回公立大学法人熊本県立大学教育研究会議 議事録

日 時：平成30年9月18日（火）午後2時30分～午後3時20分

場 所：熊本県立大学大会議室

出 席：学長	半藤 英明
副学長	堤 裕昭
事務局長	田中 純二
文学部長	鈴木 元
環境共生学部長	松添 直隆
総合管理学部長	進藤 三雄
地域連携・研究推進センター長	丸山 泰
学術情報メディアセンター長	村尾 治彦
環境共生学研究科長	北原 昭男
学校法人 九州ルーテル学院長	内村 公春
熊本県公立高等学校長会長	和久田 恭生

欠 席：崇城大学教授・九州大学名誉教授 山田 耕路

事務局：齊藤事務局次長、多田隈教務入試課長、前田総務課長、脇上企画調整室長、平山教務入試課班長

1 開会

2 学長挨拶

3 議事

(1) 審議事項

① 教員の採用について

事務局総務課から資料1に基づき教員2名の採用について採用予定者、採用予定科目、採用予定年月日及びこれまでの審査の経過等について説明があった。続いて関係各学部長から次のとおり説明があった。

1) 英語教育

鈴木文学部長から資料1-3に基づき「英語教育採用人事について、公募に対して9名の応募があり、書類不備の2名を除く7名に対して文学部内で選考手続きを進め今回の候補者を選定した。」との説明があった。

2) 看護学

進藤総合管理学部長から資料1-4に基づき「看護学採用人事について、公募に対して4名の応募があったが2名は資格不適合であった。総合管理学部内で選考手続きを進め今回の候補者を選定した。」との説明があった。

各学部長からの説明に続いて、全学資格審査委員会議長である堤副学長より、資料1-2に基づき「文学部英語教育の採用予定者は講師、総合管理学部看護学の採用予定者は准教授での採用が適当であると全学資格審査委員会において判定した。」との報告があった。

審議の結果、全て案のとおり承認した。

(2) 報告事項

① 平成29年度業務実績評価及び第2期中期目標期間業務実績評価について

事務局企画調整室から資料2、資料2-2、資料2-3に基づき「熊本県公立大学法人評価委員会から「平成29年度業務実績報告書」及び「第2期中期目標期間業務実績報告書」の評価結果について通知があった。平成29年度の業務実績評価書については、第2期中期目標期間の最終年度として、重点目標としている「教育の質の向上」、「特色ある研究の推進」及び「地域貢献の更なる推進」のいずれにおいても着実な成果を上げたと評価いただいている。第2期中期目標期間6年間の業務実績評価書については、熊本地震において避難者約1,400名を受入れ、学生等が積極的にボランティア活動を実施したこと、教育研究のテーマに「熊本地震からの復興」を取り入れ、本学の理念である「地域に生き」を実践したことについて極めて高く評価していただいた。教育については、「もやいすと評価制度」の導入、管理栄養士国家試験の合格率向上に向けた取組と合格実績、食育活動の推進と農林水産大臣賞の受賞、就職率の向上対策等、高い評価をいただいた。大学院入試における志願者の減少、キャップ制については、課題として指摘を受けている。研究については、各研究科における取組や科学研究費をはじめとする外部資金の採択実績の大きな伸びについて評価をいただいた。地域貢献については、包括協定団体の増加、COC事業やCOC+事業の採択と実施により、地域課題の解決に貢献したこと、国際交流では、学術交流協定の締結大学等の増加や国際関係シンポジウムの開催などが評価された反面、外国人留学生が減少していることへの着実な対応が求められている。また、今年度からスタートした第3期中期目標期間における本学への高い期待が示され、我が国の18歳人口が今後減少していくことを踏まえ、国の動き等も注視しながら、県内の高等教育のあり方についての将来を見据えた検討を、県や県立大学のリーダーシップのもと早期に開始することを期待するとの評価委員会の議論について申し添えられている。」との報告があった。

4 その他

次回日程 平成30年度第7回 10月1日(月) 午前11時～
本部棟2階 大会議室

5 閉会